

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では情報や文章を的確に読み取って考え、表現を工夫して分かりやすく伝えること、算数では「数量関係」や「データの活用」、意味の理解に課題が見られる。また、両教科ともに、2極化の傾向が捉えられる。

○東京ベーシックドリル算数において、表やグラフの読み取分が、りやすく表現することに課題がある。

○RSTは、全般的に高いが同義文判定に課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が主体的に学びに向かうことができるように、学習過程や学習活動、学習環境の工夫、個に応じた指導の充実の工夫などを推進する。

○目的や相手意識をもち、自分の考えを工夫して表現（話す・聞く、書くなど）する活動の充実や細やかな評価と指導を積み重ね思考力・表現力を高めていく。そして、それを交流し合い考えを深められるようにしていく必要がある。

○漢字や言葉を活用しながら語彙力を高める必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

★「学ぶ喜び」「成長する喜び」「つながる喜び」を実感できるようにする

①「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる（→いかす）」、みんなの問題をみんなで解決する問題解決的な学習。

・「板橋区授業スタンダード」を基盤とした単元を通じた問題解決 ・単元や内容のまとまりを意識した問題解決的な学習

・関心や問題意識を高める導入の工夫（教材開発、学習活動、地域・関係諸機関との連携） ・見通しと振り返りの重視

・子どもが選択して学習に取り組む場面の意図的な設定（課題、時間、方法、資料、活動等）

・各教科・領域等の見方・考え方を働かせて考え、表現することのできる教材や学習活動、指導・支援の工夫

・言葉で表現し伝え合い深め合う活動の充実（対話的・協働的な学び） ・学びを生活や社会とつなぐ ・自己調整場面の設定

・授業規律（聞き方・話し方も含む）の徹底

②校内研究の推進 ・授業実践を核とした実践的な研究 ・学びを日々の授業に生かす ・相互授業参観の促進 ・地域素材・人材の活用

③GIGAスクールの推進

・一人一台端末の活用推進…学年段階に応じた計画的な指導・活用、効果的かつ多様な活用（調べる、記録、まとめる、伝え合う、発信、聞き取り、交流等）

④カリキュラム・マネジメントや探究的な学びの充実 ・各教科等の学びを相互に発揮したり生かしたりできるようにする

⑤小中一貫教育の推進…小中9年間の系統性・関連性を意識した指導

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の、学習の流れを定着させ、学力の向上につなげる。 ○総合的な学習の時間、社会科を中心に単元のまとまりを意識した問題解決的な学習を展開する。 ○児童が資料や方法、課題等を選択し、自己の学びを振り返りながら調整していく場面を意図的に設定し主体的な学びを促す。	○板橋区「情報活用能力の指標」に基づき、学年段階に応じた活用、指導を推進する。 ○学習のねらいに即して一人一台端末を効果的に活用し、自分の思いや考えを表現したり、交流したりするとともに、自己の学びを振り返りながら考えを深めるなど、個別最適な学びと協働的な学びをあわせて充実していく。	○学校や地域の環境を活用しながら、子どもの疑問・関心・問題意識から課題を立て、情報を集めて整理・分析し、まとめて表現したり実践したりする探究的な学習を展開する。 ○カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、各教科等の学びを、「総合的な学習の時間」の学習活動と双方向につなげながら、相互の充実を図る。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○低学年における保育園幼稚園交流や「スタートカリキュラム」をあわせて充実し、保幼小の接続をスムーズにできるようにする。 ○「桜川学びのエリア」として、総合的な学習（探究的な学習）の研究を深めてきたので、9年間の学びの連続性やゴールを意識しながら計画的に指導する。 ○中高学年の教科担任制を生かして、多くの教職員が子どもとかわかり、中学校の教科担任制の接続を円滑にする。	○ふれあい月間アンケート、WEBQUも活用しながら、多面的・多角的に児童理解を深め、子どもに寄り添いながら一人一人を大切にしたい指導・支援を行う。 ○学びや特別活動において、多様な人とのかわりを大切に豊かな心を育む。 ○道徳教育では、各教室掲示板に道徳コーナーを設置し、授業の充実を図る。 ○学級活動、体育保健領域を中心とした計画的な心身の健康に関する指導を年間を通して行い、健やかな体の育成を図る。	○ユニバーサルデザインの視点にたった、授業の工夫、教室環境の整備、教材の設計を図る。 ○学級・学年、StepUp教室、家庭で連携を図りながら、途切れない支援を行う。 ○校内支援委員会を開き、特別な支援を要する児童へは、組織的に支援をする。特別な教育的ニーズに応じて多様な職員（学校生活支援員、特別支援アドバイザー、SC、SSW等）や関係機関との連携を図る。